

特定非営利活動法人アサザ基金 第26期 活動報告

<2024年4月1日～2025年3月31日>

私たちは、アサザプロジェクトの開始当初から、社会が環境問題の解決を規制や制限に依存するあまりに、社会から自由が失われ統制社会へ向かう危険性を指摘してきました。

そのような課題を意識して、私たちは問題解決型から価値創造型への転換や、統制（中心への集中）から対話的分散（中心の無い協働ネットワーク）への転換を目指し、様々な事業に取り組んできました。

それは、人々に対して、強力な組織や権力によって変える—変えられる（統制）という発想から、個々の人間が主体的に変わる一つつながる自由（対話的分散）が起きる場の創出への、発想への転換を促そうとする試みでもありました。その試みは、特に子ども達との対話（学習）を通して深めていくことができました。

世界の状況を見ると、深刻化する環境問題の解決策として、技術革新への期待と依存が高まっています。それらの技術革新の先にあるのは、社会の隅々にまで、個々人の内面にまで監視が及ぶ、統制社会ではないかと危惧する声が高まっています。

技術革新によって社会を「変える」という発想に依存すればするほど、私たちは「技術によって変えられる」「技術への適応を強いられる」存在へと墮ちていくのではないでしょうか。また、同時に、人間の自由（自ら変わること）や生きるということの意味が見失われていくのではないかでしょうか。

アサザプロジェクトは、人々がこれらの重要な問いと向き合うことができる場にならなければなりません。

自然環境や景観を破壊し、生き物達の住処を奪い乱立する太陽光発電や風力発電、未来の人々に計り知れない負債を押し付ける原子力発電等によって実現しようとする持続可能な社会とは、一体何を意味しているのか。未来の人々に何を残そうとしているのか。

子ども達が長年保全再生に取り組んできた霞ヶ浦水源地でも、太陽光発電所計画が浮上しています。子ども達が泥まみれになって作り上げてきた未来が打ち砕かれようとしています。

私たちは、再生可能や持続可能といった言葉が世の中に溢れる中で、「生きること」が「生存すること」へと置き換えられていく状況にあることに、気づかなければなりません。

「これは、僕の日向ぼっここの場所だ。ここに全地上の横領の始まりと縮図とがある。」

パスカルの予言した状況が世界中に拡大し、顕在化しつつあります。

パスカルが近代科学の盲点を指摘したように、環境問題の解決を科学技術に求めて行っても、生存可能性という答えしか得ることができないでしょう。

環境への取り組みは、いま大きな岐路に立たされていると思います。一人一人の人間が、生きる意味や価値を見出すことができる場を、環境への取り組みの中に、どのようにして生み出していけばよいのか、今その問い合わせ私たちに突きつけられています。

「人間が活動できるのは、人間の一人一人が唯一の存在だから、そして一人の人が誕生するたびに、何か新しいユニークなものが世界に持ち込まれるためである。」（ハンナ・アーレント人間の条件より）。今必要なのは、新しい知性が芽生える場ではないでしょうか。

アサザプロジェクトの理念に共感するイタリアの人たちと、一人一人の子どもや若者が自分の本当の学びと出会うことができる場を作ろうと、対話を重ねています。

アサザプロジェクトを開始した頃から探究し続けてきた「個々の人格が場として機能するネットワーク」「対話的分散による社会」の実現に向け、私たち自身にもアサザプロジェクトにも、新たな試みに向けて常に開き、変わり続けることが求められています。

2025. 6. 17 飯島 博

○ 環境教育事業

毎回の授業が、分散した多様な個を結ぶ知性（開かれた知）をひとりひとりの子どもたちに芽生えさせる場となるよう努めてきました。

- 牛久市内におけるESD環境学習授業は牛久市教育委員会より委託（2004年～）を受け、3校で12回、延べ771名が参加しました。従来の授業に古民家プログラムが加わり、馬やヤギとのふれ合い体験やノコギリを使って竹を切る竹林整備体験など里山での活動が子ども達には大変好評でした。
- 流域内では笠間市立稻田小3-4年生6/19(35名)、納場保育園児や学童保育の子ども達(60名)8/23に「生きものとお話しする方法」などの環境学習をしました。合計3回(95名)
- 流域外では秋田県潟上市立大豊小4年生(37名)が5/7学校BTの成り立ちや今後の課題について話合いました。岡山県では、岡山エコサポートーズ小桐さんのコーディネートにより岡山市立小串小9/26と山間部にある中和小の授業9/9をサポートしました。2回(12名) 11/11北九州市立すがお小4年生とオンラインで学校周辺の放置竹林について学びました。(17名)
- NECキャピタルソリューションと協働で進めている都内での「わくわく子どもの池プロジェクト」は18年目を迎えました。BT造成以外はすべてオンラインで実施しました。
亀青小5年生3クラス(83名) 菊川小5年生(73名) 計5回(405名)

○ 霞ヶ浦の水辺の保全と再生事業

湖の生態系を脅かす水位管理の問題、逆水門の閉鎖、2011年原発事故による放射能汚染問題など霞ヶ浦を取り巻く問題を意識し続けながら様々な取り組みを行なってきました。霞ヶ浦本体で顕在化している問題の原因の大半は湖をめぐる社会のあり方、流域環境の変化にあります。問題の結果が現れた後でいくら対策を講じても限界があることを、私たちはこれまでの経験から学びました。流域に広く存在し複雑な背景を持つ社会問題への様々なアプローチを通して、より深く霞ヶ浦の保全再生に取り組んできました。

- 9/18 新宿かっぱ村有志が潮来市水郷トンボ公園でアサザの植付を行いました(16名)
霞ヶ浦で絶滅してしまったアサザが定着するよう工夫をこらし成果がみられました。
- 納場保育園の子ども達が10/7 トンボ公園でアサザの植付(30名)を行い、帰りに古民家で里山体験をしました。
- 10/10 プロテリアル社員ボランティア(8名)が霞ヶ浦でアサザの植付をしました。
- 大日本印刷株環境ボランティアの方々がアサザの里親として、苗づくりに協力いただきました。
- 水郷トンボ公園(1998年飯島が設計・市民が造成)は潮来市から委託を受け、絶滅危惧種のアサザやオニバス、ミズアオイを保全しています。開園作業4/16(21名)と閉園作業11/8(18名)には当基金と旧ジャランボPJメンバー、市の職員も参加して作業を行いました。

○ 水源地保全事業

霞ヶ浦流域の主要3河川の水系に位置する牛久市、鹿嶋市、桜川市での水源地再生事業を中心に、将来の流域展開を視野に入れた取り組みを行なってきました。参加企業さんの協力により、水源地保全の酒米作りは堅調です。もち米から手作り煎餅も増えてきました。各水源地に古くからある集落の人々の暮らしに寄り添った形での事業展開を行い、過疎化高齢化など地域の課題への解決策の一つとして水源地保全再生事業を根付かせていく努力をしました。

- NEC 田んぼづくりプロジェクト with アサザ基金
(2004年～石岡市東田中、2010年～牛久市上太田)
田植5/28(86名) 稲刈9/21(120名) 3/16白菊酒造での蔵出しえイベントに参加
石岡市と牛久市の2拠点で米作りを行い、年間を通して達人の皆さんにご支援いただきました。

- 猛暑の影響か米の収穫量が大幅に減少したことが残念です。
- 三井物産谷津田再生プロジェクト（2007～牛久市遠山）

田植 5/18 (48名) 草取 7/27 (50名) 稲刈イベントは悪天候で中止 仕込 2/15 (19名)
 谷津田再生イベント 田んぼと牛久沼とのつながりを確認しました 3/15 (40名)
- SUZUYO いいね！プロジェクト（2018年～牛久市遠山）

田植 5/25 (42名) 稲刈 9/14 (42名)
 ご家族での参加者が増えてきました。環境学習へのご支援にも協力いただきました。
- かっぽん田プロジェクト（2010年～牛久市遠山）

ラーニング生を2名受入ました。田植 5/11 (12名) 稲刈 9/16 (10名) 自然共生サイト現地調査 (6名) 収穫祭 1/31 (7名)
 谷津田での米作りの他、自然共生サイトに関わる生き物調査、古民家での馬やヤギの世話や餅つき等を体験してもらいました。
- ホギメティカル谷津田再生プロジェクト（2009年～牛久市奥原）

田植 6/1 (70名) 草取 ホタル観察 7/20 (81名) 稲刈 10/19 (50名)
 仕込み 2/8 (23名) 蔵出 3/29 (20名)
 ホタルの出現に目覚ましいものがありました！イベント時のスイカ割を大人も子どもも楽しみました。酒づくりは田中酒造（取手市）に協力いただきました。
- UBS RICE Project (2008年～鹿嶋市山之上)

田植と自然観察会 6/8 (88名) 草取 7/6 (38名) 稲刈 9/29 (94名)
 お酒は愛友酒造（潮来市）、揚げ煎餅は鍵林製菓（龍ヶ崎市）にご協力いただきました。
 地元の皆さんに支えられ、国際色豊かでエネルギーッシュな社風に元気をいただきました。
- レゾナック お米で自然とつながろうプロジェクト（2017年～桜川市）

田植 4/27 (65名) 草取りホタル観察 6/15 (45名) 筑波山を望む歌垣の郷。イノシシ、ブヨ対策に苦労しましたが、参加者は楽しく活動しました。稲刈りは中止（イノシシ被害）
 煎餅製造にはアスカ食品（桜川市）に協力いただきました。
- SBI FX トレード(株) 未来へつなぐ田んぼ再生プロジェクト（2023年～牛久市島田）

田植 5/19 (20名) 10/20 畑で活動 餅つき (16名)
 「未来へつなぐ糺煎餅」はアスカ食品（桜川市）に協力いただきました。
- 各社の水源地保全のオリジナル酒は 白菊酒造（石岡市）、田中酒造（取手市）、愛友酒造（潮来市）、神沢川酒造場（静岡市）にご協力いただきました。

○ 耕作放棄地の活用

アサザの古民家に導入した馬や山羊の飼料を地産地消で貯うことで、広大な耕作放棄地や放置竹林、手入れの行われなくなった里山への働きかけにつながることがわかりました。大和田の里を守る会（代表 宮本さん）とも連携して餌場の確保に努めました。今年度も馬や山羊の飼料のほぼ100%を地元や流域から採取することができ、大量に発生する馬糞を堆肥にして再生した農地に還元しました。

○ 古民家を活用した環境保全と地域活性化

農閑期となる秋から冬にかけて古民家周辺の竹林整備を進め、下の谷を馬のパドック場として活用できるようにしました。

- 竹林整備 NOK グループユニオン 4/20 13名
- ギターコンサート 4/13 (13名) 10/5 (11名)
 地元島田町出身のギタリストと昔の同級生が集い、尺八やボサノバの素敵なジョイントを楽しみました。
- 古民家大好きな子ども達が体験活動しました 12/26 (3名) 3/27 (3名)

○ 自然観察会などの自主イベント

- ベニマル広場でオーガニックハロウィン（5回目）を実施 落ち葉かき 紙芝居 ススキミニズク作りを神谷自治会や子供会との共催で実施しました。11/4 50名
- アサザ学習塾は正会員の岩瀬公一さんに講師をお願いして実施しました。
4/21 (1名) 5/12 (2名) 6/23 (3名) 8/25 (3名) 計9

○ ボランティアや研修生の受け入れ

- SONPO 環境財団のラーニング生2名を6月～1月まで受入、アサザプロジェクトの様々な活動を体験していただきました。
- 賛助会員の寺内さんが古民家西の谷津や他の谷津田再生地で水路整備や草刈りなどホタルの生息できる環境づくりに協力いただきました。
- 牛久市島田町古民家周辺の耕作放棄地を手入れしている宮本さんが馬やヤギのエサとなる採草地を提供してくれました。
- 2月曹洞宗の僧侶 荒木さんが古民家で修業されました。
- 牛久市内の中高生が古民家を訪問し活動しました。

○ 会報の発行

会報「あさざだより」70号（2024年9月）を発行し、会員の皆様や学校、企業などの関係者に配布し活動紹介に努めました。

○ SNSで活動を発信！

フェイスブックやツイッターを活用して、リアルタイムでアサザプロジェクトの活動を発信しました。

○ 講演、視察、ヒアリングの受け入れ

講演：9/5 一新塾での飯島さんの講義も毎年恒例となりました。オンラインで実施しました。

視察：8/2 牛久市教育委員会地域巡回研修 25名・12/18 韓国の教育者霞ヶ浦視察 16名（事前下見3名含む） 2/14 北海道三井物産睦月会 遠山の谷津田見学 11名

ヒアリング：6/12 環境学習について 東京農工大 張さん 7/1 かすみがうら水族館職員と実習生10名 11/5 自然体験学習について 茨城大学農学部学生

✿ ご寄附をありがとうございました。

2024年度の寄付金総額は24,834,008円でした。会員の皆様、心ある支援者の皆様のご協力に感謝申し上げます。

✿ イオンのイエローレシートキャンペーンに参加してご支援をいただきました。

アサザプロジェクトへの参加人数 2024/4～2025/3

環境教育事業 1,337名

水源地保全事業 1,092名

その他 294名

計 2,723名